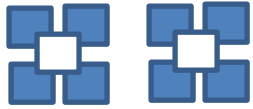
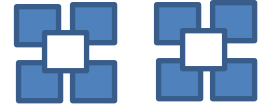


たすけあい名古屋

通信第133号



我が事・丸ごと



団塊世代の高齢化に伴い、介護保険制度の改訂、新しい総合事業の導入など国の福祉制度、市町村の福祉制度ともに大きく変わりつつあります。

3月4日に、たすけあい名古屋も加盟している「あいち福祉ネット」の主催で福祉助け合いフォーラムが開催されました。介護福祉に従事される方、社会福祉協議会の方、大学生等総勢で約120名の参加を得ました。

今年も厚生労働省より介護保険の元締めである三浦明振興課長が、国会開催のさなかにも拘らず駆けつけて下さり、新しい総合事業が各地でどのように展開されているかの講話をされました。

また日本福祉大学原田正樹教授より「地域の支え合い体制づくり～福祉教育の観点から～」をテーマに講話をいただきました。

お二人の話を通し、これからの高齢者福祉制度の充実に向けてのキーワードは「地域」と「共生社会」で、共通しています。

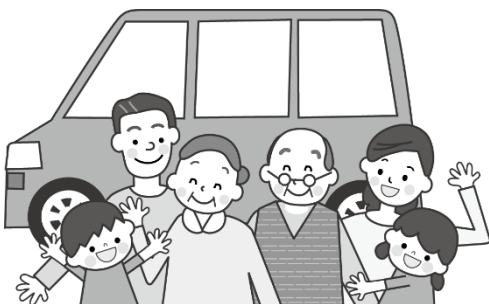
「地域包括ケア」。お聞きになったことがあると思いますが、地域にお任せするのではなく、自分たちが地域の一員として、地域のために自分たちが参加して作り上げていくことです。

「我が事・丸ごと」これからの地域福祉は自分たちが動かなければなりません。これからの高齢者は、福祉制度を利用するだけでなく、地域包括ケアを支え、自分のため、お隣さんのために地域で活躍して行かなければなりません。

もう一つのキーワード「共生社会」。高齢者・障がい者・子供と縦割りの考えを改め、お互いが助け合う社会を築いて行かねばなりません。

道路交通法改正も以前にお伝えしておりますが、いよいよ3月12日から施行されました。高齢ドライバーには安全運転が今まで以上に求められます。もし免許証を返納すると、途端に外出する手段・機会を奪われ日常生活にも大きな変更を余儀なくされます。経済的にゆとりのある大都市に住まわれている方はいざ知らず、多くの方は自宅に引きこもり、健康を失っていくことにもなりかねません。

国交省・厚労省は、新しい総合事業の中で地域の輸送サービスをどのように提供するか



の検討会を開始しました。学識経験者、バス・タクシー業界、NPOも加わった会議体です。従来の福祉有償運送は、介護保険利用者に限定されていますが、これからの総合事業の対象者、障がい者、免許証返納者と多様な方を対象にどのようなサービスを構築して行くかが課題です。規制を緩和するとの議論もありますが、安全な輸送を提供しなければならず、厳しい議論となることが予想されます。
(代表理事 西川 達夫)

ご利用者の玉手箱☆…「たすけあい名古屋」をご利用くださっている

ご利用者のコーナーです。ご利用者にも通信に参加して頂くため、俳句、和歌、詩、短編小説、また「たすけあい名古屋」に対するご意見ご要望、などご紹介していきます。



「老々介護の悲哀 知っていますか」

富田 貞枝

恥ずかしい事ながら、私も2、3年前まではいとも簡単に「老々介護って大変ね」と言っていました。

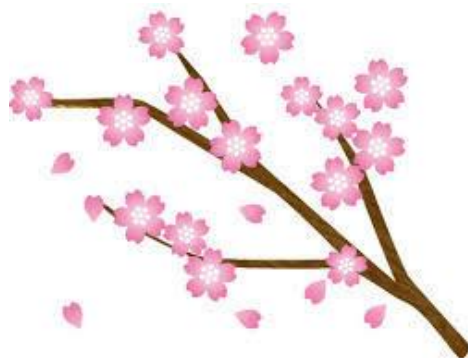
主人が入院し、亡くなるまでわずか5カ月余り、朝は病室に8時に着き汚れ物を取り替え清拭するのが私の日課でした。主人は喜び「ありがとう。ありがとう。ありがとう。」と笑顔を見せてくれました。ところが、私は主人の病室に一刻も早くと急いだ折に転んで大腿部骨折、手術となり、主人の病室へその報告に行った時の、余りの悔しさ、悲しさ。主人も「お前はオッチョコチョイだから。」と言うなり男泣き。私も申し訳なくて2人で唯泣くばかりでした。今も思い出しては泣いております。私が車椅子に乗れるまで主人が車椅子で面会に来ては「足は痛くないか。ご飯は食べれるか。」と心配し、最後は力強い握手をしてくれました。その度に、夫婦の切っても切れない深い愛情を感じ、泣く私でした。

ところが私が主人のためにしていた事を看護師さんに頼むと「後で…」と言って帰ってしまう始末で、主人はノイローゼが怒りとなり爆発し、荷物を車椅子に乗せ病院を逃げ出そうとし、エレベーター前で2人の看護師に慰められていました。私が車椅子で行くと「こんな病院には居れない。死んでも良いから家に帰る。」と言います。私は「お父さん、今はどの病院も看護師不足だから辛抱するのよ。」「そうしてね、郷に入れば郷に従うって昔から言うでしょう。一日も早く病気を治し、家に帰りましょう。」と何度も繰り返し慰めました。結果、やっと病室に帰りベッドで横になるのを待って、私は主治医に面接を願い出て「なんとか家に帰らせてやって下さい。これでは精神的に駄目になりそうです。」と。先生は考えた結果、「家に帰るのは少々不安、転院することにしましょう。」と先生も辛い思いで決定頂いた。

転院後は環境も変わり主人も喜んで居りましたが、回復と悪化を繰り返し衰えて行きました。主人の衰えと共に私の身体も心臓の苦しさを感ずる様になり「もうこれまでか。」と思った時、「お父さん一緒に死にたいね。」と涙ながらに言いました。主人が「俺も一緒に行けたら嬉しいよ。」と言ったのを聞いて私は主人の胸で号泣。すると汚れたタオルで私の顔を拭いてくれた。この時の悲しみは永久に忘れる事ができません。

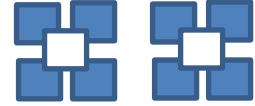
一緒に死ぬことを決心し遺書を考えている2日間の間に、主人は急変し一人で逝ってしまいました。私の悲しみは言葉に言い表すことが出来ず、唯々呆然とするばかり夢遊病者の如くで、息子からも「そんなことでどうする。」と叱られました。「もう2日待っていてくれたならば一緒に彼の世に行けたのに。」と悔いる日々でした。

今静かに考えます時、私自身は未遂に終わりましたが、新聞やテレビなどで老々介護の果て心中及び殺人などの報道があると、夫婦の愛情が深ければ仕方がないことかもしれないと思ってしまいます。唯、法律では許されないことです。現在、日本の家族は仕事上、核家族になり各地方にて親を介護することは無理で、したがって老々介護に委ねる場合も増えています。今に団塊の世代も押し寄せて来ます。健康で寿命をまっとうしたいものですね。





福祉たすけあいフォーラムに参加して



第15回福祉たすけあいフォーラム「介護保険制度の今後を見ずえた地域支えあい体制のしくみ」に参加して、以下の感想を持ちました。

厚生労働省の三浦振興課長が「介護保険制度の将来像と新しい総合事業の実践事例」と題して基調講演をされました。内容は介護保険制度を取り巻く状況や介護保険法の改正法律案についてでした。聞きたかった「新しい総合事業について」や「29年度介護報酬改定（介護職員処遇改善）について」は、時間がなく詳しい話が聞けなくて残念に思いました。

フォーラムの中で一番印象に残ったことは、愛知淑徳大学福祉貢献学部の学生による「認知症の見守り」の発表でした。（あいち福祉ネットの活動に影響されて実施したそうですが、小学低学年、同高学年、中学の3つのグループに分かれ数か月かけてディスカッションし、実践した認知症見守りの寸劇や紙芝居を十数人の学生が分担して発表したことです。内容はもとより、その発表の仕方が整然として素晴らしい劇を見ているようでした。

120名の参加者やパネリストの方々も異口同音に素晴らしい発表だったと感心していました。
（天白福祉会館 各務 芳春）

デイサービス鳴子だより



3月は、干支をテーマに「鶏とひよこの貼り絵」をして頂きました。スタッフの描いた鶏とひよこの絵に、ハサミで切った色紙を「かわいいね」と言いながら、とさかや目の部分に貼りました。大きな紙にチラシなどをちぎって貼り、その上に先ほどの鶏とひよこも貼りました。出来上がった作品は、フロアに飾らせていただいています。

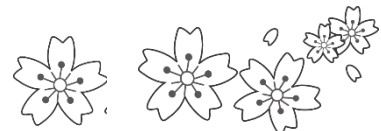
また、「笑いヨガ」では、大きく笑い声を出しながら、体を動かしました。サクソや二胡の鑑賞会では、皆さんと一緒に懐かしい歌を歌ったりして、楽しい時間を過ごされました。



貼り絵

（デイサービス鳴子 高橋 和美）

障がい者総合支援だより



平成29年2月5日、3月19日に行なわれた、平成28年度 施設職員のための連続セミナー「自閉症の理解と支援」（青年期・成人期の支援者向け）に参加しました。講師は諏訪利明先生で自閉症の障害特性や支援方法などを学びました。

1回目の研修終了時に、“5人の子どもたち一人ひとりに合わせた教室の環境を考え、部屋の見取り図を記入しなさい”という課題が出されました。5人の子どもたちの特徴や相性を考えながら、自立課題のエリアや遊び（休憩）のエリア、集団活動のエリアなどを考えるのは想像以上に難しかったです。しかし、書きあげた見取り図をグループ内で話しあったり、先生の答えを確認していく作業は本当にいい経験になりました。諏訪先生に具体的な支援方法を直接アドバイスして頂く事もでき、これからの支援に活かしていきたいと思えます。
（生活介護かるむ 矢田 晴美）

■お知らせ■

「ホームヘルプなるこ」が 「介護みどり」へ事業統合・移行します

これまで、介護保険法に基づくヘルパー派遣事業を「介護みどり」において、障害者総合支援法に基づくヘルパー派遣事業を「ホームヘルプなるこ」において、それぞれ独立して提供してまいりました。

この度、より安定的に良質なサービスを提供し続けるために、両事業所の統廃合を実施いたします。平成29年3月31日をもって「ホームヘルプなるこ」を廃止し、同年4月1日から「介護みどり」において事業を継承します。**ご高齢の方も障がいをお持ちの方も、ヘルパーのご用命は「介護みどり」で承ります。**

職員一同心を寄せ合い、サービスを必要とする方の地域生活を支えるために努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

介護みどり管理者 岡田耕一

旧ホームヘルプなるこ管理者 村田裕子



— 天白福社会館 — 4月より、館長が交替します

平成24年から館長を5年間担当してきた **篠田宏明** が退任し、^{かがみ}**各務芳春** が新館長となり、これから皆様のお手伝いをしてまいりますので、よろしくお願いいたします。

5年間のご協力に感謝！

平成24年から5年間大過なく務めることが出来たのも、皆様のご協力の賜物です。今後は新館長を側面からサポートし、この天白福社会館を盛り上げて参ります。
(篠田)



篠田

新館長 各務

就任のご挨拶

この度、篠田館長の後任として4月1日より館長に就任いたします。2年間の会館業務を活かし、微力ですが職務に専念して参りますのでよろしくお願いいたします。

(各務)

ホームページをご覧ください

たすけあい名古屋 検索



特定非営利活動法人（認定NPO法人）たすけあい名古屋

代表理事 西川 達夫

〒458-0041 名古屋市緑区鳴子町四丁目13番地 愛知県住宅供給公社鳴子第1住宅

TEL 052-899-0833 FAX 052-899-0800

Eメールアドレス：info@tasukeainagoya.com